

# 保育者養成校における授業カリキュラムと 就職試験の内容との関連性についての一考察

東 ゆかり (初等教育学科・助教授) ・ 白川 佳子 (初等教育学科・助教授)

## A Study of the Connection between the Contents of Childcare Teacher Training Programs and Employment Examinations

Azuma, Yukari · Shirakawa, Yoshiko

### Abstract

We have been working on the training for childcare teachers for a long time and the contents of childcare that we teach include expression, human relationship, training for childcare internship and music. Also, we advise each student before and after their internship outside our classes. In the course of childcare, it is really important for students to get jobs related to their specialties. A previous study showed that students who got jobs related to their specialties were satisfied with the education that they had received at college (Abe & Shirakawa, 2006).

The purpose of this present study is to investigate what knowledge and abilities are necessary for childcare majors by using the reports on employment examinations. Then, we will discuss the connection between the needs of kindergartens and nursery schools and the contents of childcare teacher training program. In this study, the subjects were the total of 207 students who submitted the reports of employment examinations (121 candidates for kindergarten including 73 two-year-college students, 1 three-year-college student and 46 four-year-college students and an unknown subject; 86 candidates for nursery schools including 62 two-year-college students, 1 three-year-college student, 22 four-year-college students and an unknown subject).

The results were as follows:

First, approximately 80% of the subjects took the employment examinations of kindergartens and nursery schools in Kanagawa prefecture.

Second, regarding the season of the examinations, most of the kindergartens carried them out during the period from late October to late November, while nursery schools did during the period from late November to late December.

Third, regarding the contents of the employment examinations, there were 3 types: (1) interview (conducted at 95% of the kindergartens and nursery schools), (2) piano playing (at 84% of the kindergartens and 58% of the nursery schools) and (3) essay (given under such topics as "Ideal childcare teacher" or "How to interact with children in various situations"). Some specific and distinctive topics were seen in both kindergartens (e.g., "handicapped children") and nursery schools (e.g., "food and nutrition education"), questioning about the wider range of childcare

teacher training program.

These findings suggest that the needs of kindergartens and nursery schools toward students included various things in expertise. Our future task is to utilize these findings for our curriculum.

Key words: childcare teacher training, curriculum, employment examinations

キーワード：保育者養成、授業カリキュラム、就職

## はじめに

私達は、長年、保育者養成の仕事に携わっており、保育内容の表現や人間関係、保育実習指導、音楽などの科目を担当しており、授業以外では実習の事前指導と事後指導を個別に行っている。保育者養成課程において、学生が専門職を生かした就職をするということはとても重要なことであり、専門性を生かした就職をした学生ほど母校に対する満足度が高いという結果もある（白川，2005；安部・白川，2006）。現代の子どもを取り巻く社会は、少子化や核家族化など急激に変化してきている。それに伴い、保育現場で求められる保育者の資質も変わってきているのではないかと考えられる。保育現場における初期キャリアの研究では、保育者養成校で学んだ知識は卒後年数が経つにつれて不足感を感じるようになり、リカレント教育や現任者研修などによって専門知識や技術の補充をしていく必要性が示唆されている（白川，2005）。しかしながら、私達、保育者養成に携わる教員は、卒業後のリカレント教育等を通して保育者を育成することの重要性を認識している

と同時に、2年間ないし4年間の保育者養成を通じて学生が就職する時点での保育現場で働くことができるだけの専門知識や技能を習得させる役割を担っているといえる。本研究では、保育者養成校における授業カリキュラムに焦点を当て、保育現場の就職試験の実態を調査することにより、その関連性について検討してみたい。中でも、保育現場や就職試験で取り上げられる機会の多いピアノについて、基礎技能「音楽」におけるピアノ実技の位置づけの視点から詳細な分析をおこなうこととする。

## I. 保育者養成校における専門性とキャリア教育

### I-1. キャリア教育の枠組み

短大・大学におけるキャリア教育の枠組みを図1に示した。図1に示したように、短大・大学入学時点を「Input」、短大・大学在学時の学習活動を「Throughput」、卒業時を「Output」、卒業後の30歳くらいまでの初期キャリアを「Outcome = 教育の成果」としているが、本研究では、特に、就職時に保育現場から求められる保育者の資質を就

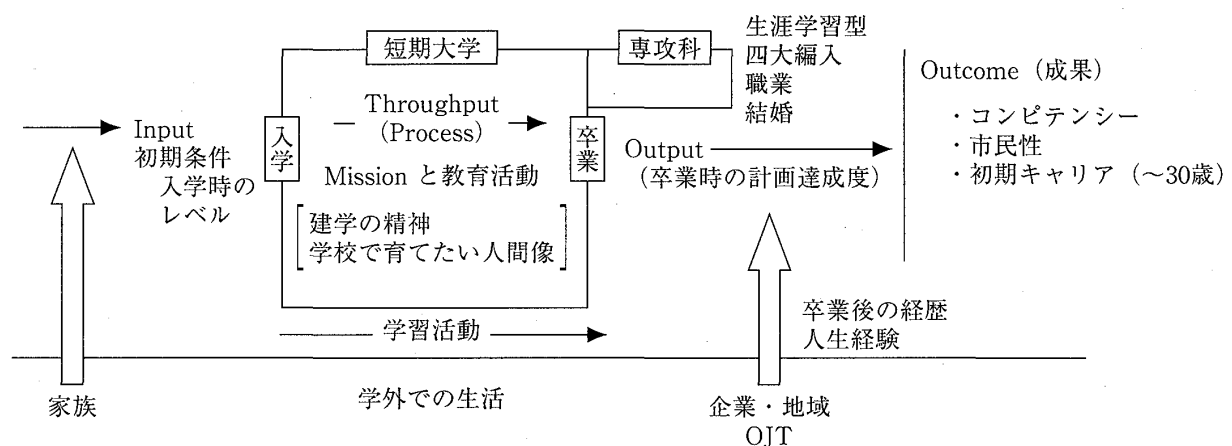


図1 短大・大学教育のキャリア教育の成果  
(短期大学基準協会編調査研究報告書(2005)の序章より引用)

職試験の内容から分析し、これを「Output」とし、短大・大学の学習活動、いわゆる「Throughput」との関連を見ていくことに着目した。

保育者養成カリキュラムにおける専門性に関しては、全国保育士養成協議会が示した授業シラバスと内容を用語別に分類した小林・白川（2005）の表1をもとに考えてみたい。表1にあげた用語は、保育現場における現任者研修のテーマとしてあげられたものを抜粋しているが、これらの用語は保育現場で重要性の高いものであることは間違いのないであろう。これらの内容を保育士養成課程

では講義系科目、演習系科目、実習系科目等で学生達に教授しているわけであるが、多くの科目が幼稚園教諭養成カリキュラムにも含まれている。保育者養成カリキュラムにおいて、優秀な保育者を養成するためには教員側がお互いの授業内容について理解しあい連携をとることが必要になってくる。しかしながら、現実問題として、保育者養成カリキュラムに関わる授業担当者が連携を図る機会はあまりなく、お互いの作成した授業シラバスを通して内容を知るのみである。そのような現状を補うためにも、本研究の研究結果によって教

表1 保育士養成校の教科目の教授内容の一覧

No	用語(キーワード)	科目名	No	用語(キーワード)	科目名	
1	遊び	保育内容、障害児保育、基礎技能、保育実技	37	事例	社会福祉援助技術、発達心理学、乳児保育	
2	安全	保育原理、小児保健、基礎技能、保育実習	38	指導計画	乳児保育、保育実習、保育実習Ⅱ、保育原理	
3	安全教育	小児保健	39	少子化	総合演習、児童福祉、家族援助論	
4	育成	児童福祉、精神保健	40	情緒	小児保健	
5	運営	養護原理	41	情緒障害	児童福祉	
6	絵本	基礎技能<選>	42	食	小児栄養	
7	あ	選ばれるための施設作り(社会福祉、児童福祉、保育原理、総合演習)	43	人権	社会福祉援助技術、保育実習	
8	援助	社会福祉、社会福祉援助技術、児童福祉、保育原理、養護原理、発達心理学、家族援助論、乳児保育、保育内容、障害児保育、養護内容、総合演習	44	相談	児童福祉、保育原理、教育心理学、家族援助論	
9	応急処置	小児保健	45	育ち	(発達心理学、小児保健、保育実習)	
10	親子関係	家族援助論	46	第三者評価	社会福祉	
11	親との関わり	家族援助論	47	縦割り保育	(保育原理、保育内容)	
12	カウンセリング	(社会福祉援助技術、精神保健、養護内容、総合演習)	48	長時間保育	総合演習	
13	核家族	家族援助論	49	た	地域	社会福祉、児童福祉、保育原理、養護原理、小児保健、小児栄養、精神保健、乳児保育、養護内容、保育実習
14	家族	社会福祉援助技術、児童福祉、小児栄養、精神保健、保育実習Ⅱ・Ⅲ、家族援助論	50	地域福祉	社会福祉	
15	家庭	乳児保育、養護内容、保育実習、家庭管理	51	地域援助	社会福祉援助技術	
16	管理	養護原理、小児保健、基礎技能、家庭管理	52	特別	障害児保育	
17	基礎的事項	保育内容	53	認可外保育	該当無し	
18	気になる子ども	(養護内容、障害児保育)	54	な	ニーズ	社会福祉、保育原理、家族援助論、保育内容、障害児保育
19	救急	小児保健	55	発達課題	教育心理学	
20	記録	社会福祉援助技術、乳児保育、保育実習	56	評価	社会福祉、社会福祉援助技術、保育原理、小児保健、保育内容、保育実習	
21	か	虐待	57	行政	社会福祉、教育原理	
22	給食	小児保健	58	保育計画	保育原理、乳児保育、保育実習	
23	苦情	社会福祉、保育原理	59	は	保育サービス	保育原理
24	ケアマネージメント	社会福祉援助技術	60	保育士の任務	保育原理	
25	健康管理	小児保健	61	保育士の資質	保育原理	
26	研修	保育原理	62	保育士の役割	児童福祉、養護原理	
27	検討	総合演習	63	保育所保育指針	発達心理学、保育内容	
28	公私	社会福祉	64	保護者	障害児保育、保育実習、総合演習	
29	心構え	保育実習	65	ボランティア	社会福祉	
30	子育て支援	教育心理学、精神保健、家族援助論、児童福祉、保育原	66	ま	問題解決	養護原理、教育原理、小児保健、小児栄養、乳児保育、総合
31	コミュニケーション	保育実習	67	養護	教育心理学、保育内容、養護内容、保育実習、保育実習Ⅲ	
32	サービス	社会福祉、児童福祉、保育原理、小児保健、家族援助論	68	や	幼児教育	教育原理
33	支援	社会福祉援助技術、児童福祉、保育原理、養護原理、教育心理、小児保健、精神保健、家族援助論、障害児保育	69	幼稚園	保育原理、保育内容	
34	さ	事故	70	倫理	社会福祉、養護原理、養護内容、保育実習	
35	事故防止	小児保健	71	ら	連携	児童福祉、保育原理、小児保健、精神保健、家族援助論、乳児保育、障害児保育、保育実習
36	視診	該当なし				

注) 全国保育士養成協議会現代保育研究所（2001）を基準に小林・白川（2005）が用語別に分類した。

員間の保育者養成に関するコンセンサスを高めることに繋がることを期待したい。上述したように、子どもを取り巻く環境は急激に変化しており、特に、「子育て支援」については保育所保育士の専門知識や技術に不足があり、その原因の一つとして保育士養成の段階で「子育て支援」に関する教授が十分に行われてこなかったという指摘がある(金谷・坪井・吉田, 2004)。「子育て支援」に関する科目は、教育心理学、精神保健、家族援助論、児童福祉、保育原理であり、それぞれの関連科目の担当者がお互いのシラバスを理解し体系的に教授していくことが望まれる。

### I-2. 基礎技能「音楽(ピアノ)」について

ここで、保育士養成教科目の中の基礎技能「音楽」について検討してみたい。

基礎技能「音楽」では、保育現場や就職試験でピアノの演奏能力を求められる場面が多いことから、ピアノ実技の授業内容に重きが置かれる傾向がある。塩原(1996)は、現在の養成機関のピアノ教育に携わる多くの教師が「西洋クラシック音楽の教育体系の中でピアノ演奏を専攻してきた音楽家達」であることについて触れ、学生のピアノ演奏能力の評価やその基準となる価値観がピアノ演奏家養成の伝統に則ったものであることを指摘している。さらに、幼児の音楽表現を支援していく能力としては、保育者自身の「多様性のある、そして偏見のない音楽観を持つこと、一つの音楽的価値観にこだわらないこと」と、技術的な能力に留まらず、視野の広い音楽的価値観を持つことの重要性についても触れている。

このことは、東・岡本(2000)も指摘しているように、多くのピアノ教師にとって、自分が長年慣れ親しんできた音楽は自信を持って安心して教えられるレパートリーであり、また自身が辿ってきた学習プロセスがピアノ演奏上達へのプロセスであるが故に、ピアノの「演奏技術」だけを保育者養成の中で切り離して考えると、保育からかけ離れた「ピアノのためのピアノ教育」になってしまう危険性を伴うものであることを意味している。この点からも保育現場でどのような音楽活動

を支える能力が求められているのかをピアノ教師が知ることは、演奏技術だけに偏らない授業内容を構築していく上で重要である。

本来、基礎技能は保育内容を支える教科である。そして、基礎技能「音楽」は保育内容「表現」と密接な関わりを持っている。

保育内容「表現」について、平田(1999)は、「保育の中の音楽活動、すなわち歌唱、遊戯(身体表現)、合奏(楽器あそび)、オペレッタ等があるが、「表現」の視点で捉え、実践しようとするほど保育者は難しさを感じているようであり、とりわけ、楽器あそびから合奏への発展的援助のあり方に悩む保育者が少なくない」と述べている。このことは、保育内容での「表現」が他の領域との関連を含めた広い意味を含んだ言葉である一方、音楽表現、造形表現といった場合の「表現」は手法の問題が中心となることを伺わせる。この点に関して、甲斐(1997)は、「養成校におけるシラバス等を見ると、子どもの活動としての領域「表現」と、保育者養成校課程に教科として設定されている教科「表現」とにおいて少なからず混乱が見られるようである」と指摘している。そして、「保育の構造や保育者養成の体系の中で、少なくともその枠組みについては共通的な認識が必要であり、その上で、具体的な保育の内容や手法・技術等について検討すべきではないだろうか」と述べている。これらのことから、保育内容「表現」の授業では、技能だけでなく他領域との関連を体系的に捉えて、子どもの発達の援助についても扱うことが求められるであろう。

### I-3. 実習との関連

次に、実習と授業との関連を見てみたい。多くの授業担当者は、学生達が実習を通して子どもの発達や実際の子どもの姿を学んでくるため、授業内容の理解が深まると感じているのではないだろうか。実際に、保育系の学生が実習を通して学んだことが保育者養成課程での学習に影響を与えるという研究が多くなされている(田爪・小泉, 2006)。作野(2005)では、幼稚園実習から戻った学生に対して、実習中のピアノ伴奏時の緊張に

ついてアンケート調査を行った結果、「一度間違  
うと頭が真っ白になって音がとんでしまう」「指  
が冷たくて手が震えた」「初めは子どもの歌うテ  
ンポが分からず、それに合わせられず速く弾きす  
ぎた」などの回答が上がっていた。日頃の授業や  
学期末の試験などでも、前述のような場面は、特  
にピアノ学習歴の浅い学生に多く見られる傾向で  
ある。ところが、実習という生身の子どもを前に  
した状況では、日頃の授業等ではなかなか得るこ  
との出来ない貴重な体験が綴られている。「弾く  
前はとても緊張したが、弾き始めて、子どもたち  
が歌ってくれているうちに楽しくなってきた」  
「子どもが知らない歌を弾くのは緊張したが、弾  
く度に弾けるようになっていき、日を追う毎に、  
例え間違っても焦ることもなくなっていく」な

ど、実際の保育の場面では、ピアノを弾く学生の  
演奏能力だけでなく、子どもたちを含むその場の  
環境の力によって、学生の様子が大きく変化して  
いくことがわかる。このような実習における学び  
の重要性を考えると、「実習時期」との関連を考  
えながら授業内容を組み立てる必要もあるのでは  
ないだろうか。

## Ⅱ. 就職試験からみた保育現場が求めている専門 性

保育現場、特に、私立の幼稚園・保育所で求め  
られる保育者像は地域性や園の教育・保育方針や  
園長の考えなどによってさまざまである。また保  
育現場は時代の流れに多大なる影響を受けるた  
め、保育現場の新しいニーズを探っていくとは大

表2 地域別の幼稚園と保育所の受験者数

都道府県	市	幼稚園数	受験者数
北海道	苫小牧市	1	1
東京都	大田区	1	1
	品川区	1	1
	町田市	2	3
	川崎市	6	6
神奈川県	横浜市	38	46
	相模原市	2	2
	横須賀市	4	7
	大和市	4	6
	厚木市	2	2
	鎌倉市	6	7
	逗子市	1	1
	小田原市	1	1
	藤沢市	6	9
	平塚市	5	7
秦野市	1	1	
千葉県	千葉市	1	1
	君津市	1	1
茨城県	稲敷郡	1	1
	牛久市	1	1
栃木県	宇都宮市	1	1
	鹿沼市	1	1
埼玉県	三郷市	1	1
長野県	長野市	1	1
	須坂市	1	1
静岡県	三島市	1	1
	静岡市	2	2
新潟県	上越市	1	1
	新潟市	1	1
福島県	白河市	2	2
	郡山市	1	2
	会津若松市	1	1
	いわき市	1	1
合計		100	121

市	県別園数	保育所数	受験者数
秋田	鹿角市	1	1
岩手	水沢市	1	1
	宮古市	1	1
東京都	品川区	1	1
	大田区	1	1
	世田谷区	1	1
	町田市	1	2
	八王子市	1	1
神奈川県	川崎市	1	2
	横浜市	26	35
	座間市	2	2
	横須賀市	3	4
	三浦市	1	1
	大和市	1	1
	厚木市	1	1
	海老名市	1	1
	鎌倉市	2	2
	小田原市	2	2
	藤沢市	2	2
	綾瀬市	2	2
	茅ヶ崎市	3	5
	平塚市	4	8
足柄上郡	1	1	
中郡	1	1	
千葉県	船橋市	1	1
	八千代市	1	1
茨城県	鹿嶋市	1	1
栃木県	鹿沼市	1	1
静岡県	沼津市	1	1
	富士市	1	1
新潟県	新潟市	1	1
合計		68	86

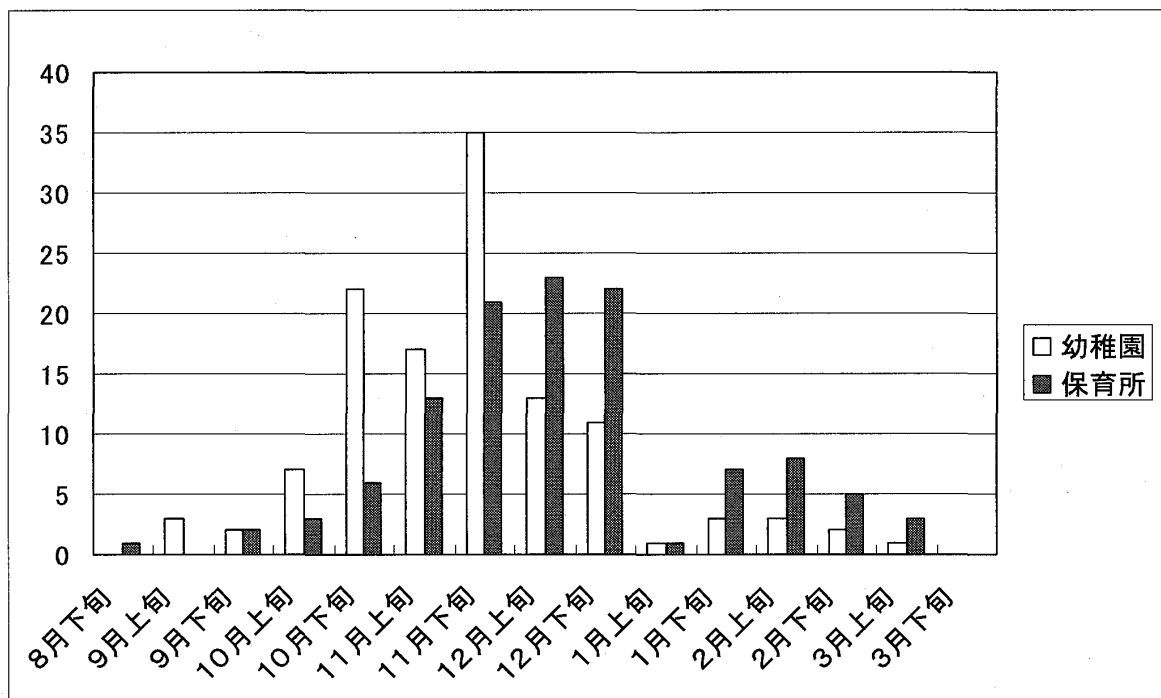


図2 幼稚園と保育所の受験時期別の受験者数

変意義のあることであると思われる。

そのため、ここでは、保育者養成課程の学生の私立幼稚園・保育所の就職試験の実態から、保育現場ではどのような知識や技能が求められているのかについて、保育現場が求めているニーズをみとめることにする。

方法は、鎌倉女子大学の2005年度の私立幼稚園・保育所の就職受験報告書と音楽実技試験報告書を統計的に処理した。受験報告書の内容は、受験地、受験時期、筆記試験、音楽等の実技試験、論作文、面接の内容であった。被験者は、幼稚園受験者121名（短大生73名、専攻科生1名、大学生46名、不明1名）、保育所受験者86名（短大生62名、専攻科1名、大学生22名、不明1名）の延べ207名であった（表2）。

被験者の約80%が神奈川県内の私立幼稚園・保育所を受験していた。受験時期は、幼稚園では10月下旬から11月下旬が最も受験者が多く、保育所では11月下旬から12月下旬がもっとも受験者が多かった（図2）。

II-1. 就職試験の概要

試験内容については、面接試験は幼稚園も保育所も95%以上の園で実施されており、実技試験に

ついては幼稚園で84.2%、保育所で58.6%、筆記試験については幼稚園で40%、保育所で17.6%と、それぞれ幼稚園の割合の方が高かった（表3-1）。また、表3-2には、就職試験の形態を分類別に示している。表3-2に示したように、幼稚園・保育所ともに多いのは、「実技・論作文・面接」の組

表3-1 幼稚園・保育所別の就職試験の内容

	幼稚園 N合計=120		保育所 N合計=87	
	N	%	N	%
筆記試験	48	40.0	15	17.6
実技試験	101	84.2	51	58.6
論作文	60	50.0	46	52.9
面接	117	97.5	81	95.3

(注) 表中の数値は、複数回答を示す。

表3-2 幼稚園・保育所別の就職試験の内容

	幼稚園		保育所	
	N	%	N	%
面接	11	9.2	19	21.6
論作文・面接	5	4.2	12	13.6
実技・面接	20	16.8	12	13.6
実技・論作文・面接	35	29.4	24	27.3
実技・論作文	1	0.8	1	1.1
筆記・実技・論作文・面接	16	13.4	5	5.7
筆記・実技・面接	26	21.8	5	5.7
筆記・実技	2	1.7	0	0.0
筆記・論作文・面接	2	1.7	4	4.5
筆記・面接	1	0.8	1	1.1
論作文	0	0.0	1	1.1
実技	0	0.0	3	3.4
筆記・実技・論作文	0	0.0	1	1.1
合計	119	100	88	100

み合わせであった。幼稚園と保育所の違いをみたところ、「面接のみ」の試験は幼稚園より保育所が多く、「筆記・実技・面接」の試験は、幼稚園が保育所より多かった。そして、実技試験の内容は弾き語りや初見を含むピアノ実技が最も多く、他には実習や手遊び、工作などであった(表4-1、表4-2)。音楽に関しては、実技試験だけでなく筆記試験としても出題されていた(表9-1)。

次節以降では、実技試験、論作文、筆記試験、面接の詳細についてみていくことにする。

表4-1 幼稚園の実技試験の内容

	N	%
ピアノ	60	59.4
実習	7	6.9
ピアノ・実習	5	5.0
ピアノ・工作	4	4.0
ピアノ・紙芝居	3	3.0
ピアノ・描画	3	3.0
ピアノ・絵本	2	2.0
ピアノ・集団演技	2	2.0
ピアノ・手遊び・運動	2	2.0
ピアノ・絵本・紙芝居	1	1.0
ピアノ・絵本・ダンス	1	1.0
ピアノ・歌唱	1	1.0
ピアノ・紙芝居・折り紙	1	1.0
ピアノ・工作・手遊び・ダンス	1	1.0
ピアノ・実習・絵本・紙芝居	1	1.0
ピアノ・実習・歌唱・リズム	1	1.0
ピアノ・実習・工作	1	1.0
ピアノ・素話	1	1.0
ピアノ・手遊び	1	1.0
ピアノ・手遊び・特技	1	1.0
運動	1	1.0
折り紙	1	1.0
合計	101	100

表4-2 保育所の実技試験の内容

	N	%
ピアノ	25	49.0
実習	6	11.8
その他	2	3.9
ピアノ・運動・素話	2	3.9
ピアノ・歌唱	2	3.9
ピアノ・実習・歌唱	2	3.9
ピアノ・絵本	1	2.0
ピアノ・絵本・運動・リズム・合唱	1	2.0
ピアノ・折り紙・食事礼法	1	2.0
ピアノ・折り紙・生活マナー	1	2.0
ピアノ・歌唱・絵本	1	2.0
ピアノ・歌唱・絵本・描画	1	2.0
ピアノ・歌唱・手遊び	1	2.0
ピアノ・工作	1	2.0
ピアノ・実習・工作	1	2.0
ピアノ・手遊び・折り紙	1	2.0
ピアノ・描画・運動	1	2.0
描画	1	2.0
合計	51	100

(注) 表中のピアノは弾き歌いと初見を含む。

## II-2 実技試験(ピアノ)の内容

表5には、ピアノの実技試験の内容を課題曲、自由曲、初見に分けて示している。幼稚園、保育所ともに自由曲の割合が高いが、そのほか、特に幼稚園では初見も高い割合を示していた。次に、課題曲、自由曲、初見のそれぞれの特徴をみていくことにする。

表5 幼稚園・保育所別の音楽実技試験の種類

	幼稚園		保育所	
	N	%	N	%
課題曲	19	13.2	6	11.1
自由曲	69	47.9	37	68.5
初見	56	38.9	11	20.4
合計	144	100	54	100

(注) 複数回答を含む。

### 幼稚園の課題曲に関する特徴:

課題曲の提示方法については、事前に楽譜を園側から渡されるケースが93.8%、その他が6.2%だった。曲の内容は「童謡」「子どもの歌」「生活の歌」の他に「園歌」、キリスト系の園では「こどもさんびか」、仏教系では「ののさま」などの宗教に関連する歌が提示されるケースもあり、バイエルやマーチなどのピアノ曲は少なかった(表6-1)。また、「高度なテクニックより楽しそうに歌っているか、音程は合っているか等を評価する」と具体的に試験の意図を説明されたケースもあった。

表6-1 幼稚園の課題曲の分類

幼稚園の課題曲	曲数	曲名
童謡・子どもの歌	8	さんぽ、あめふりくまのこ、きらきら星、ツッピンとびうお、手をたたきましよう、とんぼのめがね、まつぼっくり
生活の歌	5	さよならのうた、123のごあいさつ、おかえりのうた、おべんとうのうた
園歌	5	園歌(題名なし)
宗教関連の曲	5	こどもさんびか、ささぐみあかし、ののさまに、瞑想の歌、幼児さんびか
ピアノ曲	2	ソナチネ15番ロンド、バイエル
マーチ	1	スエーデンマーチ
合計	26	

(注) 表中の曲数は複数回答であるため、園数とは対応していない。

### 幼稚園の自由曲に関する特徴：

自由曲の提示方法については「自分の得意な曲」を持参するよう指示される場合が全体の65.2%を占めており最も多かった(表6-2)。したがって、曲の内容については大枠では養成校側の裁量に任されているといえる。しかし、中には「子ども向きの曲でどの位のレベルか判断できるものを用意する」「自分の得意な曲、幼児教育用の歌を選んできると」など具体的に選択の基準を示している園もみられた(表6-3)。また、「求人票には(ピアノが)書かれていなかったがその場で(弾くように)指示された」ケースや「履歴書の特技にショパンやベートーヴェンを好んで弾くと書いたため、その場で突然弾くように言われた」という予想外の展開になったケースもみられた。なお、苦手意識を持って臨んでいると判断されたケースでは「バイエル以上は弾けないと困る」と演奏レベルを具体的に示されることもあった。

表6-2 幼稚園の自由曲の提示方法

	N	%
1. 自分の得意な曲	58	65.2
2. 弾き歌いの曲	16	18.0
3. ピアノ曲	5	5.6
4. 子どもに指導したい曲	3	3.4
5. 童謡以外の曲	3	3.4
6. その他	4	4.5
合計	89	100

表6-3 幼稚園の自由曲の出題形態において「その他」にあげられたもの

- ・子ども向きの曲でどの位のレベルか判断できるものを用意する
- ・自分が自信を持って弾ける曲なら何でも良いと言われた
- ・自分で練習してきた分だけ弾く
- ・自分の好きな曲1曲と教則本から1曲
- ・自分の得意な曲、幼児教育用の歌を選んでくる
- ・先生一人と他の受験生の前で弾いた
- ・その他2~3曲弾ける曲を弾くように言われその場で弾いた
- ・その場で好きな童謡を1曲弾き歌いするように言われた。楽譜は自分が持参したものを見ながら弾いた。
- ・バイエル以上は弾けないと困ると言われた
- ・ピアノ教則本から1曲と弾き歌い。5番まで省略せずに弾き歌いした。
- ・弾き歌い1曲ともう1曲は自分の好きな曲。省略しないで弾いた。
- ・弾き歌いでも弾き歌いでなくてもどちらでもよいと言われた
- ・弾き歌いは自由なのでどちらでもよい
- ・二人の先生の前で弾く(一次試験)子どもの前で弾く(二次試験)
- ・ホールで弾き歌いする。省略せず最後まで演奏した
- ・履歴書の特技にショパンやベートーヴェンを好んで弾くと書いたため、その場で突然弾くように言われた

### 幼稚園の初見に関する特徴：

初見に使用される曲は、そのほとんどが童謡、子どもの歌、生活の歌であった(表6-4)。また、演奏に際しては、あらかじめ練習時間が与えられる場合が52.2%、その場でいきなり弾く場合が

表6-4 幼稚園の初見視奏の分類

	曲数	曲名
童謡・子どもの歌	68	どんぐりころころ、ぞうさん、ちょうちょ、むすんでひらいて、さんぽ、こぎつね、大きな栗の木の下で、まつぼっくり、グーチョパー、思い出のアルバム、山の音楽家、やきいもグーチョパー、めだかの学校、チューリップ、森のくまさん、ふしぎなポケット、ホホホ、となりのトトロ、地球はメリゴーランド、小さい秋みつけた、たなばたさま、せっけんさん、ずいずいずっころばし、子守唄、おもちゃのチャチャチャ、おへんじハイ、おつかいありさん、うれしいひなまつり、いぬのおまわりさん
生活の歌	17	おはようのうた、おべんとう、おかえりのうた、誕生日のうた、さよならのうた
園歌	5	園歌(題名なし)
宗教関連の曲	1	アーメン
ピアノ曲	1	バイエル
マーチ	1	オリンピアマーチ
その他	1	いのち
合計	94	

(注) 表中の曲数は複数回答であるため、園数とは対応していない。

表6-5 幼稚園の初見視奏の出題形式として「その他」にあげられたもの

- ・10分間練習してから弾く。楽譜を見ながらピアノのみ。
- ・1曲選択。その他得意な季節の歌を1曲弾き歌い(その場でいわれる)
- ・1冊の童謡の本を渡され、1曲選んで10分間練習してから弾き歌いをして、終了後なぜその曲を選んだか理由を話す。
- ・1冊の本の中から好きな曲を選んで10分程度練習して弾き歌いした
- ・20分練習した後ホールで弾き歌いした
- ・3分間予見してピアノ伴奏のみ
- ・3分間練習
- ・4曲楽譜を渡され、10分くらい練習する。面接の後に2曲指定されて弾いた
- ・4人の先生が見ている前で弾く
- ・5曲楽譜を渡され、その中から2曲を選び5分くらい練習してから弾いた
- ・一次試験のみ
- ・園歌は右手のメロディのみで左手は自分で考える。右手のみでも可。
- ・楽譜どおりでなくても良いと言われた
- ・片手でも良いと言われた
- ・求人票の記載は自由曲だけだったが、その場で楽譜を渡され2, 3回練習してから弾いた
- ・子どもが20人位いる部屋に案内されて一緒に歌った
- ・初見で出来ないのは当たり前だがどれくらい出来るか見たいと言われた
- ・好きな曲を1曲選び、理事長、園長、主任の前で弾く
- ・旋律と歌詞のみの楽譜に伴奏をつけて子どもと歌うように弾き、その後へ長調の曲をト長調に移調して同様に弾いた。
- ・その場で指定される
- ・出来れば弾き歌いでと言われた
- ・途中から右手のメロディーに対し、自分で左手の伴奏を考えながら弾く
- ・ピアノのみ
- ・控え室に作文用紙と一緒に置かれていた。練習は出来ない。
- ・弾き歌いではなく伴奏のみ
- ・非常に難しい楽譜で変奏曲的だったので弾き歌いできる人はほとんどいなかった
- ・譜面は最後に回収された
- ・難しい楽譜。練習した後楽譜を見ながらピアノのみ。
- ・予見時間は自分で判断して弾き始める
- ・予見時間20分



47.8%であり、曲数は、指定された1曲だけを弾く場合が47.7%、複数用意された曲の中から自分で選んで弾く場合が38.3%、指定された2曲とその他がそれぞれ8.5%だった。また、予見の時間は3分～10分程度だが、中には「20分練習した後ホールで弾き歌いした」ケースもあった(表6-5)。他には、課題の楽譜に対して「楽譜どおりでなくても良い」と指示されたり、「右手の旋律だけの園歌に自分で伴奏をつける」というコード伴奏の課題や「旋律と歌詞のみの楽譜に伴奏をつけて弾き歌いし、その後へ長調からト長調に移調して同様に弾き歌いした」という難度の高い課題も見られた。

保育所の課題曲に関する特徴：

保育所の課題曲の楽譜は、事前に園側から渡されるケースか、自分の楽譜を使用するよう指示されるケースのどちらかであった。曲のジャンルは幼稚園の場合と同様であった(表7-1)。中には、「弾き歌いの課題だが楽器は問わない」というギター等、ピアノ以外の楽器の使用を認めるケースもあった。また、2曲から1曲を選択させて、演奏後なぜその曲を選んだかの理由を述べさせるという曲目設定の意図を問うケースもあった。

表7-1 保育所の課題曲の分類

保育所の課題曲	曲数	曲名
童謡・子どもの歌	7	大きな古時計、おもちゃのチャチャチャ、犬のおまわりさん、あわてんぼうのサンタクロース、ふしぎなポケット、とんぼのめがね、星に願いを
生活の歌	1	おべんとうのうた
マーチ	1	マーチ
合計	9	

(注) 表中の曲数は複数回答であるため、園数とは対応していない。

保育所の自由曲に関する特徴：

自由曲については、幼稚園の場合と同様、自分の得意な曲を用意するよう指示される場合が全体の72.3%と大部分を占めた(表7-2)。演奏に際しては、弾く直前に「大きな声で」「子どもに語りかけるように」など歌い方の注意があったケースや、弾き歌い終了後に「歌だけ歌なさい」と言われたケースもあった(表7-3)。ところで、日常の保育活動や行事でピアノをよく使用する園で

の「弾き歌いでなくピアノのレベルが見たい」と試験の意図を明確に示されるケースや、川崎市私立保育園協会二次試験の説明会における「バイエル100番程度以上、繰り返し省略」という具体的な提示もみられた。

表7-2 保育所の自由曲の提示方法

	N	%
1. 自分の得意な曲	34	72.3
2. 弾き歌いの曲	5	10.6
3. ピアノ曲	1	2.1
4. 子どもに指導したい曲	0	0.0
5. 童謡以外の曲	1	2.1
6. その他	6	12.8
合計	47	100

表7-3 保育園の自由曲の出題形態において「その他」にあげられたもの

- ・ソナチネ、ブルクミュラー、バイエル100番程度から自分で1曲選択する指示あり
- ・どちらも最後まで省略しないで弾く
- ・バイエルと童謡の中から自分の好きな曲を選ぶ
- ・始める前に「大きな声で歌って」と何度か言われた
- ・ピアノ曲は繰り返しなしで最後まで、弾き歌いは1番から2かっこへ飛び、そのままCodaへいく
- ・ピアノは練習曲でも童謡でも可。歌は弾き歌いでもアカペラでも可。
- ・弾き歌いでなくピアノのレベルを見たいといわれた。運動会でもテーブルではなく先生がピアノを弾いている保育園です。
- ・弾き歌いをした後に、歌だけ歌いなさいと言われた
- ・弾く直前に「子どもに語りかけるようにやってください」と言われた

保育所の初見に関する特徴：

初見については、あらかじめ練習する時間が与えられる場合が54.5%、いきなり演奏する場合が45.5%だった。課題は、そのほとんどが童謡や子どもの歌であった(表7-4)。複数曲の中から1曲を選択して演奏するケースが多く、予見の時間は5～10分程度であった。また、簡単な楽譜と難しい楽譜が用意されており、自分でどちらかを選択して弾くというケースも見られた。

表7-4 保育所の初見視奏の分類

保育所の初見	曲数	曲名
童謡・子どもの歌	15	こりのうた、ちょうちょう、どんぐりころころ、ぶんぶんぶん、あめふりくまのこ、お正月、おはながわらった、クラリネットこわしちゃった、サンタクロース、山の音楽家、ゆきんこ
園歌	1	園歌(題名なし)
宗教関連の曲	1	きよしこの夜
合計	17	

(注) 表中の曲数は複数回答であるため、園数とは対応していない。

### Ⅱ-3. 論作文に見られる専門知識

表8-1、表8-2には、幼稚園と保育所別の論作文の内容を示している。幼稚園・保育所ともに「理想の保育者像」がもっとも多くあげられており、次に自分の家族についてのテーマが多かった。自分の家族についての論作文が多いのは、子どもに関わる保育者がどのような育ちをして自分の家族に対してどのような価値観を持っているかをみるためであろう。

また、論作文のテーマは幼稚園・保育所ともに「理想の保育者像」が多く、その次に、「さまざまな子どもの事例についての保育者の対応」を問うものが多かった。幼稚園・保育所それぞれの特徴としては、幼稚園では統合保育（障害児保育）についてのテーマがあり、保育所では食育を意識したテーマがあがっており、保育者養成カリキュラムの広範囲の内容を総合的に問われるものであった。

表8-1 幼稚園の論作文の分類

	N	%
理想の教師像	22	36.7
遊び	2	3.3
おたより	2	3.3
志望動機	2	3.3
社会情勢	2	3.3
その他	2	3.3
事例	11	18.3
統合保育	3	5.0
幼児教育	2	3.3
私・自分の家族	12	20.0
合計	60	100

表8-2 保育所の論作文の分類

	N	%
志望動機	3	6.5
食育	4	8.7
事例	8	17.4
保育士像	16	34.8
私・自分の家族	15	32.6
合計	46	100

表8-3、表8-4には、幼稚園と保育所別の論作文の事例問題を示している。現代の子どもたちがおかれているさまざまな問題、すなわち、いじめ、不登校、学級崩壊、食事の問題、乱暴な子ども

も、虐待の問題、保護者への対応の仕方など多岐にわたっており、保育者養成カリキュラムの広範囲に関するものであった。

表8-3 幼稚園の論作文の事例問題

- ・どうしたら生きる力が身につくか
- ・あなたが思う子どもに適した環境とは何か
- ・いじめ、不登校、学級崩壊について、子どもへどう対応するか
- ・現代社会における人間関係、子どものけんかに対する対応の仕方
- ・子どもの目線に立つということで、保育者として大切なこと
- ・子どもへの虐待
- ・しつけについて
- ・保育現場のビデオを見ての感想
- ・保育者が子どもを指導するのに必要だと思うこと
- ・幼児教育の良い環境は、赤ちゃん返りしている子どもへの接し方、けんかした子どもの親への対応
- ・幼児の問題に対して幼稚園教諭として何ができるか

表8-4 保育所の論作文の事例問題

- ・「子どもの心の基礎作り」(資料添付)について
- ・〇〇のようなとき、あなたはどうか対応しますか
- ・2, 5歳児の設定遊び、朝食をとってこない子への言葉かけ、子どものけんかへの対応、乱暴な子どもへの対応
- ・愛情について
- ・あなたが今まで生きてきた中で困難だったこと、またそれに対するあなたの対応は
- ・お便り帳の中で保護者から相談を受けたときの返事について(選択)。乱暴な子(1歳)、排泄が身につかない(2歳)、寝つきが悪い(幼児)
- ・スクールカウンセラーとして小学校の先生から相談された際の助言

### Ⅱ-4. 筆記試験と面接にみられる専門知識

表9-1、表9-2には、筆記試験の内容を幼稚園と保育所別に示している。幼稚園、保育所とも一般教養・一般常識が最も多く、具体的な内容では漢字の試験が多かった。他の筆記試験の内容は、面接で聞くことができるものであっても敢えて、学生に記載させており、学生の文章能力や字の丁寧さを見るためではないかと思われる。幼稚園の筆記試験の内容は多くの項目に分類されたが、自分の家族について、子どもへの対応、壁画構成、理想の保育者像、指導案作成、保育5領域、学年だよりの作成など保育の専門科目に関連しているものが多かった。

次に、表9-3、表9-4には、面接の内容を幼稚園と保育所別で示している。幼稚園、保育所ともに、自分の家族に関する内容が最も多く、次に志望動機・理由が多くあがっていた。特筆すべきことは、幼稚園に比べるとピアノの実技試験が少

ない保育所において、面接ではピアノの技術についての質問が多くなされていることである。これは、ピアノの実技試験を実際におこなわないが、保育の中で必要な要素の一つであることを示すものであり、その自覚を促す意味も含まれていると予想される。また、保育所では、0歳児から6歳児までの異年齢の子どもがいるため、どの年齢のクラスを担当したいかを尋ねることが多い。

また、本研究の被験者は、保育者養成校の2年制課程と4年制課程の学生であるが、面接の際に、4年制の学生に対しては卒論やゼミの内容やなぜ4年制大学に進学したのかといった質問がなされ、さらには、短大卒の年下の同僚と一緒に働くことに抵抗はないかなど職場の人間関係に関する質問もなされていた。

表 9-1 幼稚園の筆記試験の内容

一般教養・一般常識(漢字・計算・作品名)	33
適性検査	8
自分の家族について	6
子どもへの対応	6
志望動機	6
教育要領	5
自己PR・自己紹介	5
音楽	4
性格判断テスト	4
壁画構成	4
理想の保育者像	4
指導案作成	3
専門知識	3
保育5領域	3
生きる力	2
学年だよりの作成	2
祝日	2
好きな花の絵	2
総合施設	2
調査票	2
バウムテスト	2
保育をする上で重要なこと	2
ボランティア	2
本の感想	2
よい指導・援助	2
幼稚園と保育園の違い	2
私の大切なもの	2

(注) 回答数が2以上のものを示した。

表 9-2 保育所の筆記試験の内容

一般教養・一般常識	5
専門知識	3
適性検査	2
性格検査	1
ポスター製作	1
自己PR・自己紹介	1
スポーツ	1
理想の保育者像	1
健康面	1
ボランティア	1
動物の世話の有無	1
家事手伝いの有無	1
縦割り保育	1
得意な保育教材	1
アルバイト経験の有無	1
部活動	1
実習の感想	1
親子関係	1
児童福祉法・学校保健法	1
日案作成	1
志望動機	1
子どもへの対応	1
虐待	1

(注) 回答数が2以上のものを示した。

表 9-3 幼稚園の面接内容

自分の家族について	50
志望動機	48
実習の感想	41
通勤方法・手段	37
園の感想	17
自己PR・自己紹介	17
大学生活	16
特技	15
ピアノの技術	15
アルバイト	13
健康面	13
試験について	13
実習の感想	11
部活・サークル活動	11
履歴書の内容	11
趣味	10
担当するクラスについて	9
読書	9
ボランティア	9
勤続の意志	8
子どもへの対応	8
ゼミ・卒業論文	7
尊敬する人	7
短所	7
長所	6
ニュース	6
人間関係(職場を含む)	6
音楽経験	5
宗教	5
就職についての親の考え	5
短大卒と一緒に働くことについて	5

(注) 回答数が4以下のものは省略した。

表 9-4 保育所の面接内容

自分の家族について	39
志望動機・理由	26
園の感想	22
通勤方法・手段	21
ピアノの技術	18
自己PR・自己紹介	18
希望の担当のクラス・子どもの年齢	12
特技・得意なこと	10
大学生活	10
アルバイト	10
授業・科目・教科	9
長所	7
短所	7
理想の保育士像	6
部活・サークル活動	6
一人暮らし	6
試験について	6
ボランティア	5
人間関係(職場を含む)	5
ゼミ・卒業論文	5
スポーツ	5
宗教	5

(注) 回答数が4以下のものは省略した。

## II-5. 考察

### II-5-1. 保育現場が求めるピアノ演奏能力

保坂(1999)が平成9年に名古屋市と岐阜市の幼稚園、保育所におこなったアンケート調査によると、保育現場で期待するピアノの能力は、幼稚園、保育所ともに「季節や行事にあった曲を弾くことができる」「童謡や子どもの好きな曲のレパートリーを多く持っている」ことであった。次いで、幼稚園では「子どもの動きに合わせた即興」「コードネームによる伴奏付け」、保育所では「バイエル程度の基礎的なピアノ曲が弾ける力」が求められていた。

鎌倉女子大学の就職試験の特徴と保坂のアンケート調査からまとめると、保育現場で求められているピアノ演奏能力は、①季節や行事の曲の伴奏が弾けること ②童謡や子どもの歌の伴奏が弾けること ③初見能力 ④子どもの動きに合わせた即興演奏とコード伴奏 ⑤その他、に整理することが出来る。

ところで、なぜ保育所の現場がバイエル程度の基礎的なピアノ曲を弾ける力が必要と考えているかについては、ピアノ曲の演奏を重視しているという観点からではなく、就職試験時にピアノの苦

手な学生ほど保育所を希望する傾向が強いことと関連している問題から派生するものと捉えるのが妥当であろう。つまり、保育所受験学生のピアノに対する苦手意識の問題である。

これらのことから、保育現場が求めているピアノ演奏能力は、童謡・子どもの歌・生活の歌などを演奏することが出来る力であり、その技術的レベルはバイエル程度であるということがわかる。ここで重要な点は、バイエルの曲が弾けることではなく、バイエル程度の技術的要素を持った歌の伴奏能力であるということである。

### II-5-2. 保育現場が求める専門知識

次に、論作文、筆記試験、面接から保育現場が求める専門知識について考えてみたい。幼稚園、保育所の就職試験は、実技試験、論作文、筆記試験、面接に分類することができるが、実技試験以外の3つの試験に関しては、同じテーマの課題が園によって異なる方法で出題されているようである。例えば、「理想の保育者像」に関する問題が、A園では筆記試験として出題されたり、B園では論作文として、またC園では面接として受験生に出題されている。どのような形式で出題されても対応できるようにしておくために、出題形式よりどのようなテーマがあがっていたのかに着目することにする。上の例にあげたように「理想の保育者像」は、論作文、筆記試験、面接それぞれで出題されており、保育者養成カリキュラムで学んだ知識・技能の集大成が表出する設問である。また、さまざまな事例における保育者としての子どもへの対応の仕方についても、幅広い専門知識を必要とする設問である。他に、幼稚園、保育所の就職試験の特徴とも言えるのは、自分の家族についての設問が多いことである。一般企業の就職試験では自分の家族についての質問はタブーとされている所もあると聞かすが、保育現場では乳幼児とその家族を対象とするため、保育者自身がどのような「育ち」をしてきた人物であるのか、その人間性が非常に問われるのである。このように、保育現場のニーズは専門知識・技能だけでなく保育者としての人間性まで多岐に渡っている。今後の

課題としては、これらの結果を保育者養成課程のカリキュラムの内容に生かしていくことであると考える。

### Ⅲ. 授業カリキュラムと保育現場が求めている専門性との関連

#### Ⅲ-1. 実技系科目—ピアノ—

ここで、就職試験の音楽実技の内容と授業内容との関連を考えてみたい。

平田(1999)は、自身の保育現場での実践活動を踏まえて、乳児保育の中での音楽活動と幼児の場合の違いを「乳児には語りかけるようにうたうこと、1対1で肌を触れ合わせてあそぶこと等が重要な音楽活動の内容である・・・」と述べ、幼児の場合については、「保育の内容によっては、集団で何かを作り上げることが望ましい場合もある・・・」と発達段階に即した音楽活動のあり方を示し、さらに「園の行事で音楽活動に取組まなければならない場面も出てきます。」という保育現場での音楽の果たす役割についても述べている。

近年乳児保育の重要性の中から、「ふれあいあそび歌」など、1対1で向き合うコミュニケーションの手段としてのあそび歌の重要性が指摘されている(東・後藤・佐藤・成田・西海・細田, 2006)。その一方で、園児獲得の広報活動の一環として、本物の楽器を用いた大ホールでの音楽発表会のようなおおがかりな音楽活動も盛んである。このようなステージでは演奏の出来栄が重視されることから、本番に向けての練習が必然的に技術訓練重視の音楽活動に陥りやすいといった側面も否めない。

では、現場のニーズも受け止めつつ、保育者養成カリキュラムのピアノの授業ではどのような内容が考えられるであろうか。

保育における音楽活動を考える上で、東・岡本(2000)はコード伴奏の有効性についてふれ、その授業展開例を紹介している。コード伴奏は、単に歌唱を支える伴奏としての役割りのみならず、子どものイメージを広げる表現活動を展開する上でも有効な手段である。このことは、同時に、コ

ード伴奏が音楽を他の表現領域との関連性を持って保育の活動の中で活かすための技法の一つであることをも意味している。

#### Ⅲ-2. 講義系科目

次に、筆記試験、論作文、面接の試験内容からみた保育現場のニーズと講義系科目との関連を見ていくことにする。

保育現場のニーズは多岐に渡っているが、どのような保育者になりたいのかといったしっかりとした目標を持った保育者を求めていることが就職試験の内容から分かった。渡辺(2001)によると、魅力ある保育者や望ましい保育者とは「なりたい保育者像」を持っている人であるという。また、保育者志望学生が「保育者である自分」を自覚しながら成長するプロセスを「保育者アイデンティティの確立」と捉えることを提案している研究や模擬授業を通して学生の保育者アイデンティティの確立を調べている研究などもある(小泉・田爪, 2005; 田爪・小泉, 2006)。このように、保育者養成カリキュラムにおいて、学生たちが「なりたい保育者像」を確立していく過程をさまざまな角度からサポートしていく必要がある。その1つの取り組みとして、学外実習を経験する前の学生たちに「なりたい保育者像」を調査し、今後、実習を経験し卒業するまでにどのように変わっていくのかを追跡調査していく予定である。

次に、保育現場のニーズとして、保育者自身の「育ち」の中でどのような家族への感情を持っているのかといった人間性を求める傾向があるようである。特に、保育者養成では、乳幼児の発達について扱う科目が多いため、学生たちは否応なしに自分自身の幼少期を振り返る体験をしているが、中にはネガティブな感情に引きずられ、子どもへの理解に支障をきたす場合もあるのではないだろうか。授業で「虐待」を扱うと必ずといっていい程、自分自身の経験と重ね合わせてネガティブな感情が沸き上がり押さえきれない学生もみられる。保育者養成では、学生たちが乳幼児という「他者理解」を深めつつ、「自己理解」も深めていき自分の育ちを受容できるようなサポートが望ま

れるのではないかと考えられる。

#### IV. 初期キャリアとしての保育者の実態

##### IV-1. 卒業生調査の結果から

白川(2005)では、2年制保育者養成校の卒後1、3、7年の卒業生を対象に、習得した知識・技能の不足感が年々高まってくるという結果を得た。これは、養成校で習得した知識・技能だけでは急速に変化する保育の現状に対応できなくなってくることや保育者自身が保育現場を経験したことによってさらにレベルアップしたいというモチベーションの高まりであるとも考えられる。いずれにせよ保育者養成校を卒業後に現任者研修やリカレント教育の必要性があることは確かであろう。本研究では、現任者研修の現状についてみていきたい。リカレント教育については多くの保育者養成校で取り組まれているが(聖心女子専門学校, 2005)、その実態については今後調査していきたいと考えている。

##### IV-2. 現任者研修の現状

保育所保育士対象の現任者研修の全国調査と幼稚園・小学校教諭の現任者研修の全国調査の結果から(小林・白川, 2005; 小林・白川・野崎・森野, 2006)、現任者研修では「子育て支援」や「保幼小の連携」を研修のテーマに取り上げたものが多く実施されていることがわかっている。そして、全国の自治体から養成校への要望の中に、「幼小、幼保など複数の免許・資格を持つ教員を養成してほしい」などの意見があがっていた。鎌倉女子大学の場合、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士資格など複数の免許・資格を取得することが可能であり、カリキュラムの中で幼児から児童にかけての発達に重点が置かれた授業が展開されている。このことは時代のニーズに非常に迅速に対応できている点であり、この充実した教育環境を生かし、幼小連携、幼保一元化などの視点も取り入れた保育者養成を実現していきたいと考える。

#### まとめ

上述してきたように、保育現場のニーズは多岐

に渡っており、現場のニーズの実態を把握した上で、保育者養成カリキュラムの担当者が協力をしていくことが望まれる。

卒業生たちは、卒後直後にはすぐ使える実践的なものを求める傾向があるが、年数が長くなるにつれて、保育理論などの専門知識を求めるようになる。そして、卒後年数が長くなるにつれて、保育者養成校で学んだ知識・技能では不足を感じるようになってくる。また在学中の学びにおいても「子育て支援についての学習が足りない」「幼小連携についてもっと在学中に扱ってほしい」という現場からの意見もあるため(金谷・坪井・吉田, 2004; 小林・白川・野崎・森野, 2006)、現在の子どもを取り巻く現状に対応した授業内容の充実をはかり、卒業までに保育者としての資質を高めていく必要もある。

現在、鎌倉女子大学では公立の幼稚園・保育所の就職試験対策講座は実施されているが、私立の就職試験に対しては実習個別指導の担当教員や就職課が個別に対応しているという現状である。私立の就職試験は多様性があるため、一律に指導するのは難しい面もあるが、本研究の成果がその一助になればと願っている。

今後の課題としては、神奈川県内と関東地区の現任者研修とリカレント教育の実態を把握し、近隣の保育者養成校が協力しあったリカレント教育や現任者研修のあり方について検討し、授業においては、保育者を志望する学生の育ちを縦断的に調査していきたいと考えている。

#### 引用文献

- 安部恵美子・白川佳子 2006 保育系短期大学卒業生の進路・キャリア形成と短大評価, 長崎短期大学研究紀要, 18, 1-18.
- 東ゆかり・岡本美智子 2000 保育士養成における「音楽」の指導法の一考察—コードを用いたピアノ伴奏法の指導を中心にして—, 保育士養成研究, 18, 19-32.
- 東ゆかり・後藤紀子・佐藤来実・成田和夫・西海聡子・細田淳子 2006 親子のための遊び歌その5 幼児音楽研究会遊び歌研究グループ『幼児音楽研

- 究』2006年秋号（通巻第40号）18-25.
- 平田美紀 1999 幼児期の音楽って何が大切？—保育者が直面する問題を捉えながら—、『幼児音楽研究』1999年夏号（通巻第26号）幼児音楽研究会，1-3.
- 保坂恵美 1999 保育者に求められるピアノの能力と養成のあり方，『幼児音楽研究』1999年冬号（通巻第25号）幼児音楽研究会，15-19.
- 甲斐彰 1997 保育者養成課程における教科「表現」の内容構造について—枠組みづくりを中心として—，保母養成研究，15，9-17.
- 金谷恭子・坪井敏純・吉田ゆり 2004 子育て支援ニーズからみた保育士の役割と保育士養成，保育士養成研究，22，49-56.
- 小林小夜子・白川佳子 2005 保育士養成課程の教科目の教授内容からみた保育所保育士としての研修の機会と内容に関する全国調査，保育士養成研究，23，61-66.
- 小林小夜子・白川佳子・野崎秀正・森野美央 2006 幼稚園教諭・小学校教諭としての研修の機会と内容に関する全国調査 全国保育士養成協議会第45回研究大会研究発表論文集，194-195.
- 小泉裕子・田爪宏二 2005 実習生の保育者アイデンティティの形成過程についての実証的研究—保育者モデルの影響と保育者アイデンティティ「私は保育者になる」の関係—，鎌倉女子大学紀要，12，13-23.
- 塩原麻里 1996 保育者養成機関におけるピアノ教育再考 “表現すること”を中心として，『幼児音楽研究』1996年度No.2（通巻第21号）幼児音楽研究会，26-29.
- 作野理恵 2005 幼稚園実習における保育学科学生のピアノ伴奏（演奏）での問題点の傾向と対策『論文集 子どもへの視点』聖公会出版，189-208.
- 聖心女子専門学校ホームページ 2005 保育科・保育科のページ学校生活 (<http://www.sen-sacred-heart.ac.jp>)
- 白川佳子 2005 教育系と職業人仕上げ 短大卒業生の進路・キャリア形成と短大評価 調査研究報告書，短期大学基準協会142-147.
- 田爪宏二・小泉裕子 2006 保育者志望学生の「保育

者アイデンティティ」確立に関する検討—模擬保育の実践を通して—鎌倉女子大学研究紀要，13，27-38.

渡辺英則 2001 教育方法の基本とは何か 「保育方法・指導法の研究」森上史朗・渡辺英則・大豆生田啓友 編著 ミネルヴァ書房.

全国保育士養成協議会 2001 全国保育研究所 平成13年度厚生労働省児童環境づくり等調査研究事業 保育士養成シラバス第一次案 全国保育士養成協議会

## 要旨

私達は、長年、保育者養成の仕事に携わっており、保育内容の表現や人間関係、保育実習指導、音楽などの科目を担当している。また、授業以外では実習の事前指導と事後指導を個別に行っている。保育者養成課程において、学生が専門職を生かした就職をするということはとても重要なことであり、専門性を生かした就職をした学生ほど母校に対する満足度が高いという結果もある（安部・白川，2006）。

そこで、本研究では、保育者養成課程の学生の就職試験の実態から、保育現場ではどのような知識や技能が求められているのかについて分析し、保育現場が求めているニーズと保育者養成カリキュラムとの関連を考察することを目的とする。

方法は、2005年度の私立幼稚園・保育園の就職受験報告書と音楽実技試験報告書を統計的に処理した。受験報告書の内容は、受験地、受験時期、筆記試験、音楽等の実技試験、論作文、面接の内容であった。被験者は、幼稚園受験者121名（短大生73名、専攻科生1名、大学生46名、不明1名）、保育園受験者86名（短大生62名、専攻科1名、大学生22名、不明1名）の延べ207名であった。

結果は以下の通りである。

- 1) 被験者の約80%が神奈川県内の私立幼稚園・保育園を受験していた。
- 2) 受験時期は、幼稚園では10月下旬から11月下旬が最も受験者が多く、保育園では11月下旬から12月下旬がもっとも受験者が多かった。
- 3) 試験内容については、面接試験は幼稚園も保育園

も95%以上の園で実施されていた。また、実技試験は幼稚園で84%、保育園で58%と、幼稚園の方が割合が高く、実技試験の内容はほとんどがピアノの演奏であった。次に論作文のテーマは幼稚園・保育園共に理想者像が多く、次にさまざまな子どもの事例についての保育者の対応を問うものが多かった。それぞれの特徴として幼稚園では統合保育（障害児保育）についてのテーマがあり、保育園では食育についてのテーマがあがっており、保育者養成カリキュラム広範囲の内容を総合的に問われるものであった。

これらの結果から、保育現場のニーズが専門知識や実技など多岐に渡っていることが示された。今後の課題としては、これらの結果を保育者養成課程のカリキュラムの内容に生かしていくことである。

(2006.10.30 受稿)